

出穂一週間おくれ 氣遣はれる寒冷

神谷分場の発表

石城郡地方に於ける二百五十高は三千五百噸之れが取
日(九月一日)當時に於ける級上に就き種々研究中で
稲作につき神谷農試分場(つたが、今園道道省では冷
發表によれば「大畧に降二蔵貨車の量に裝置したア
百十日前に至る平均気温(スパンカー)に水を入れ車
二四度五、日照時一三六時内を冷浸して後鮮魚を積載
間四、降水量六七七六にすれば水使用量を半減し却
之れを半年に比すれば鮮魚の腐敗を防ぎ得る
均気温二度四、日照時四三、事を發見直に實施され
時五、降水量八七七七、均気温二度四、日照時四三、
氣温著しく低下し八月に恩澤を蒙るは小名濱水産
旬に及び漸く天候順調に工業會社の冷凍法に依り鮮
復し並敷に於ては半年と大魚の輸送で石城郡地方新業界
差なきも稻の生育不良に非常な利益を齎し得べく
て草丈低く稲形貧少の傾き期待されてゐる

藤原川改修

取合工事に着手
平町土木監督所は二ヶ年
繼續事業として去る昭和二
年度から磐崎村、玉川村兩
村に貫流する藤原川の護岸
工事をすすめて来たが下流
三百五五間は去月三十一日
以て竣工し、上流延長
石城郡小名濱、江名、豊田、百十間の取合工事に、
各濱の鮮魚取扱非常線はすでに同工事による年内
泉驛の昨一ヶ年、鮮魚輸送に完成せしめる豫定である

群魚を運ぶ

漁場への福音
石城郡小名濱、江名、豊田、百十間の取合工事に、
各濱の鮮魚取扱非常線はすでに同工事による年内
泉驛の昨一ヶ年、鮮魚輸送に完成せしめる豫定である

大金を拐擄して

茨城縣の金満家の件が
小名濱に捕はる
小名濱町中島町新米旅館(村山浩二)同二人妻キミ
に宇都の宮市大工町銀行員(三三)と自稱し数日前から投
起人總督を町

石城 舊名偉人傳(三)

書畫をよくす西村屋北齊
名工國虎の刀
萬治元年平町字鏡治町に生
和泉守と稱す、京都伊賀字子彦町三郎中平彦助
守金道、門に入りて鑄刀を改む、享保元年二月廿九
學、後内藤家仕へ假令平町二丁目に生れ西村屋
の名手として其の名遠近に吉兵衛氏の祖伝橋邊人
知らる、貞享四年三月靈元、始め北齋と號し鑄銅
天皇位を皇太子に讓る、國以て名を海内に著す、是
虎に宣命し御筆と作らせし、より先き多賀郡磯原の
、正徳元年朝鮮使來將日本水に就き其の遺傳を受
軍綱吉國虎に命じ大進刀、故に北の一字をとり北
銀へしめ之を賜ふ其の傑出齋と稱す、嘉永六年八月
たる名工を知るべし、享保七年歿す、年五十三才、
三年八月四日歿す、年六十の子量平賢治と號し、詩書

宿してゐる暴動不審な若い
男女のある事を平署刑事が
探知したので昨二日日本署
引致
取調た所 此男女は茨
城縣結城郡川村の家長稻
部結城四郎三男浩之助(三三)
部結城君香岸(三三)の
御支カタルが實家に療養中
の管支カタルを木下都賀郡中
村に尋ね入相談の上
駈落ちを 決意去月二
十二日家出したが其の後字
帯兩人手に手を取つて駈
落して来たもの判明した
が家出の原因は浩之助が東
京明治大學商科に
在學中から君香と戀
の手に配られ日本に引
家人に引渡されたが浩之助
であるが向兩人は平署から

大體酒を付けた

磐城製絲の募株
一萬株に達せん
來る十日を締切りに
役場樓上にて開き株式
募集以來八月末までに
定した分を持寄り清算の上
残株に對しては九月十日
から開始し同社創立
發起人側 に於て着々
歩を進めてゐるが目下農村
の疲弊加ふに財界の不況
その他の事情で最初の豫定
通り募株が出来ないので
このままでは應募株一萬株
が容易に滿株にならない
て去る一日の町會、於
て發起人の面に出頭し
かきりの應援をなすこと
に申し合平町を中心
として極力募株することに
つたが二日前午十時から發
起人總督を町

追加豫算

平町會の議事
中町では今春以來天然痘
チフス患者多数發生し既定
豫算では不足を生じたの
この程町會を招集傳染病費
を以て著はる
平町五丁目の生にして一樂
は山内宗春の號なり、山内
氏の祖玄碩初岡公に仕
ふ、衛生助通と稱す、故
ありその妻神原原政の家
志及び岩城郡志、安祿十
なり、是れ所謂刑中の仁術
に於ては、其の母を改め無
殺す罪に處せば民衆然とし
てその非を改むること明か
なり、是れ所謂刑中の仁術
に於ては、其の母を改め無
殺す罪に處せば民衆然とし
てその非を改むること明か
なり、是れ所謂刑中の仁術

速成運動

村長等出福
石城郡磐城町長志賀兼吉
油乳劑代四三百圓増△醫
師給料(二)四百七圓二
十八圓増)△看護給料速成に
千二百五十六圓増(一日
二圓三三錢)△需要費千

今宵鎌田橋畔に

燈籠籠流し
人出て雑沓を豫想さる
無情な人の世を厭ふて死
で逝つた人、旅が旅を行
方定めず流れ歩んで淋し
死んで逝つた人、許さな
戀に果かた死を遂げた
人、其れら多くの淋しく
んで逝つた人々の魂を供
する年中行事の一つ、其
は今宵灯籠籠流し、頭
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は

留吉捕はる

飯場荒し犯人
茨城縣鹿島郡那珂村大字深
芝生れ當時住所不定無職
科一犯川口吉三は去る
大正十三年八月水中戸刑務
所を出獄後各地の炭礦採
して流れてゐるが去る
月十七日午前一時頃磐城
大字上湯長飯場渡邊藤吉
万一同居中の佐藤清一郎
有銀懐中時計一ヶ代十三

痴話喧嘩の揚句

酌婦客の指を斬る
全治一週間のパンヤ職工
昨夜南町の騒ぎ
平町字南町飲食店富久美
分店小柳方酌婦新海婦、
藤三(二)は昨夜午後十時
十二時頃かねて馴染を重
てゐる平町字南町久保田
に所飛込み及渡り四時餘
の薬切刃ヲ持出し矢疑

妙見大祭

假裝の行列
中町白銀町北辰妙見神社
大祭は四日夜盛大に執行
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より

着工は明春

設計を作製中
平町土木監督所設計中
あつたこと、これは既報の
くであるが、設計も、
五日までに完成すること
なること、同時に町
會の承認を求め九月下旬
でに縣に對し上水道敷設
可申請の手続きを取ら
所を申請の申請が、
平町中村庄吉二男(三)
母に言ひつけられた町
場に納税に行く途中中
門前下野を呼止め納税す
十餘圓を失失に強奪逃走
に引致の上、嚴重な取調
を受けてゐるが強奪罪で送
檢されるらしい

梅浦夫人逝く

四日告別式
東京市入山探査會社専務取
締梅浦浦山探査會社夫人とし
子史は度々病臥中の感
去月三十一日速に逝去さ
れた葬儀は明日四日午後四時
半から東京市青山霊場にて
告別式を舉行する等
ある

買なれ五十二圓

四倉市場活況
石城郡販賣利用組合の經營
二日の取引額は二千三百
に係る四倉市場は開所以
買相場は最高五十八圓五
乗相當成績を示してゐるが
十圓最低四十圓買馴れ五

七百十五圓増
豊間漁港の
速成運動
村長等出福
石城郡磐城町長志賀兼吉
油乳劑代四三百圓増△醫
師給料(二)四百七圓二
十八圓増)△看護給料速成に
千二百五十六圓増(一日
二圓三三錢)△需要費千

小原流盛花の權威

高橋女史
誇るべき名譽と實力
平町白銀町高橋龜松氏夫人は、
道の研究家として大正元年より
道に於て来たが熱心なる研究
と天賦の優秀な技倆
は、遂に斯道の堂奥を極め、
小原宗家の最高免
許たる「家元師範」の資格
を得、更に今同約一
ヶ月前、大阪の小原宗家に
就き直接研習の結果、
研習を積み去る二十七日
歸平に於て華道に對する
の研習の経歴と技倆の
高橋女史の權威を、
華道の最許を授けられた
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、

奉納陳列

優秀品數十杯
高橋女史は上述の如く、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、

田子氏當選

三坂村長問題
石城郡三坂澤渡組合村長
任問題は五月末日任期満了
後六月中に日々に、村會
招集選舉會を開いたが前村
長田子英吉翁擁立する再選
派と現助役佐藤會を推挙
改革派の努力伯仲して容
易に議決され、其の議決
となり、今日に至つたが二十
六日同問題決定すべき最
後の村會が開かれ、田子英
吉翁再選し、秋村大典氏直
接選任せしめ、而して後継
なしと任を佐藤氏に譲る
事に妥協し紛糾を重ねた
問題も、茲に圓滿解決を見

婦人一般の技藝と

奥田式裁縫を修得
簡易と經濟を主眼に
門下生に傳習
而して高橋女史は、
華道に精進せしむるに、
婦人のたしなむる一般
の技藝を、
奥田式裁縫を修得
簡易と經濟を主眼に
門下生に傳習

笑話

田代一矢
神樂家の
張り田の
田代一矢
神樂家の
張り田の

妙見大祭

假裝の行列
中町白銀町北辰妙見神社
大祭は四日夜盛大に執行
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より
假裝行列は午後六時より

痴話喧嘩の揚句

酌婦客の指を斬る
全治一週間のパンヤ職工
昨夜南町の騒ぎ
平町字南町飲食店富久美
分店小柳方酌婦新海婦、
藤三(二)は昨夜午後十時
十二時頃かねて馴染を重
てゐる平町字南町久保田
に所飛込み及渡り四時餘
の薬切刃ヲ持出し矢疑

留吉捕はる

飯場荒し犯人
茨城縣鹿島郡那珂村大字深
芝生れ當時住所不定無職
科一犯川口吉三は去る
大正十三年八月水中戸刑務
所を出獄後各地の炭礦採
して流れてゐるが去る
月十七日午前一時頃磐城
大字上湯長飯場渡邊藤吉
万一同居中の佐藤清一郎
有銀懐中時計一ヶ代十三

今宵鎌田橋畔に

燈籠籠流し
人出て雑沓を豫想さる
無情な人の世を厭ふて死
で逝つた人、旅が旅を行
方定めず流れ歩んで淋し
死んで逝つた人、許さな
戀に果かた死を遂げた
人、其れら多くの淋しく
んで逝つた人々の魂を供
する年中行事の一つ、其
は今宵灯籠籠流し、頭
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は
夏井川鎌田橋畔に行は

追加豫算

平町會の議事
中町では今春以來天然痘
チフス患者多数發生し既定
豫算では不足を生じたの
この程町會を招集傳染病費
を以て著はる
平町五丁目の生にして一樂
は山内宗春の號なり、山内
氏の祖玄碩初岡公に仕
ふ、衛生助通と稱す、故
ありその妻神原原政の家
志及び岩城郡志、安祿十
なり、是れ所謂刑中の仁術
に於ては、其の母を改め無
殺す罪に處せば民衆然とし
てその非を改むること明か
なり、是れ所謂刑中の仁術

奥堂の道華な新斬 究研接直 元家の阪大

高橋女史の權威
高橋女史は上述の如く、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、



高橋女史は上述の如く、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、
高橋女史の權威を、